

優しく強い子に!



2.3年生 VS 愛宕練習試合

5月23日(日) 文化大G

- めあて
 - ・渡り廊下を使う ・技を使う
 - ・シュートを打つ
- 試合結果 15分
 - ・南八王子 0-4 愛宕 (1本目)
 - ・南八王子 1-1 愛宕 (2本目)
 - ・南八王子 0-2 愛宕 (3本目)
 - ・南八王子 1-1 愛宕 (4本目)
 - ・南八王子 1-2 愛宕 (5本目)

久しぶりの練習試合! 凄く良い天気になりました!
 久しぶりの試合で緊張してたのか1本目はなかなか
 皆ボールを取りに行けず相手に好きなようにされてし
 まいました!
 2本目以降はボールへの寄せが早くなっていき渡り
 廊下からのドリブル突破でリュウノスケ君のゴール等

<http://www.minamih.net/>
 21・5・27(木)
 南NEWS no 26

やはり皆が意識してボールへの寄せやドリブルしてる子のカバーに行ける
 時は凄く良い試合が出来ます! パスをしてくる相手はまだまだパスの練習を
 していない子達にはなかなか厳しいですが、良く頑張っていたと思います!
 最後に皆が試合楽しかったと言っていたのでコーチとしては凄く嬉しかったです!
 これからも練習を頑張って勝てるように頑張りましょう!
 by水野コーチ

どの子もドリブル・ターンができる子に 左右の強いキックができる子に



2・3年生の練習試合は20人近いメンバーを擁する愛宕相手に頑張っていました。3年生の新しいメンバーが2人増えたことも嬉しいですね。

1年生からパスの練習をさせているチームもありますが、南は、3年生の2学期まではドリブル中心の団子サッカーが基本です。それができないと6年生になったとき、自在にボールを動かし、数的優位を保ちながら多彩なパス&ムーブを楽しむことができないのです。北斗七星の攻防もできません。
 テクニカルカードを練習の時も持たせて、何ができるようになった、試合で何人抜けたの振り返りをさせてください。課題を克服するために、いつもの練習にドリブル・ターンのレベルアップ時間を半分は必ず入れてください。
 5つ観て判断、アイデアをコーチングも意識してご指導願います。
 よろしくお願ひいたします。

by 南の安版万

中村元コーチから5・6年生の葉山遠征・TM愛宕戦のテクニカルカードを作成・送付していただきました。有り難うございました。

- ザッとですが、分析してみますと
- ①ドリブル・ターンの技が少ない: 最高は葉山のアサキ君が7つ。5年生はユヅキ君の6つが最高でした。0回が6年0人。5年が4人もいます。
 愛宕戦ではマサムネ君のドリブル突破が目立ちました。4つの技を使っています。アサキ君・サモン君のドリブルも際だっていました。技が増えれば威力がアップします。サモン君のライトアングルも鮮やかでした。
 子どもたちにワンツーマンの多用とバイタルエリアからペナへのドリブルの突破力もド大切だよと話しています。
 ドリブル・ターンの技がないとサッカーが楽しさが半減し、個々もチームも弱くなります。Aクラスでもドリブル・ターンの練習にウエイトをかけてください。
 - ②スプリント: どれだけDUELしたかの指標になる一つのポイントです。
 6年0人 5年6人
 自己申告制でしたので6年生0ですが、6年生のマサムネ君はスプリントしていました。愛宕戦では5年のコウスケ君・ショウタ君、6年のマサムネ君がスプリントしていました。
 - ③パス&ムーブ: 6年1人 5年4人でした。いろいろなパターンのパス&ムーブで攻めの多彩さが増して、楽しさも倍増します。
 - ④5つ観て判断・コーチング: 6年1人 5年4人 全員にしたいですね。



教師の力量について論述している文章です。サッカーの指導者として学べる場所があります。

知的課題の熟成を促す

今日の学習指導においては、何時間勉強するとか、漢字や単語をいくつ覚えるといった、量的な面が強調されることが多い。また、一斉授業をやめて個別指導を重視するとか、子どもたちの「集団学習」「助け合い学習」も重視するといったように、学習指導の形態の改革に目を向けられることが多い。

それはそれで、ある程度の意味はあろう。しかし、今、本当に重要なのは、子どもが、その中に入り込んで、じっくりと学ぶに足る、良質の文化を教材として用意することではないだろうか。子どもたちが、それとていねいに取り組みながら、自分の追求すべき知的な課題を、自分の中で明確にしていくという経験をもてるようにすることではないだろうか。

事実や問題に対する、客観的で正確な理解と同時に、個性的な理解を大切に、深めていけるようにすること、そのために、子どもの表現を受け止め聞き取りながら、子ども自身が自分の関心や問題に気づいていくように促すこと、子ども同士の関係を、そうした「聞き上手」の関係に育てていくこと、じっくりと格闘するに足る良質の文化を教材として用意すること、これらを通じて、子どもたちが、自分の中で知的に追及すべき課題を明確にしていくように働きかけること……そうした力量が、今日の学習指導において、教師に求められているということができよう。

『人間としての教師』 田中孝彦著 新日本出版社 より

p 149~150

